私には農業者になるという夢がある。今回はその夢について、またこの夢ができるまでの私の歩みを皆さんに聞いてもらいたいと思う。

時はさかのぼること２０１１年。私は栃木県の那須塩原市に住んでいた。３月１１日の朝もいつもと変わらず元気よく学校へ行った。ところが、同日１４時４６分、後に私の人生を変える出来事が起こった。私が学校で読書会をしていた時、突然強度の地震が発生したのだ。窓ガラスが割れ所々で地割れが起きたのを覚えている。その地震は、後に東日本大震災と呼ばれ日本中を騒がせた。更に、その影響で福島第一原発事故が発生し、大量の放射能が放たれ、福島県と県境だった那須塩原市は一瞬にして汚染された。この時、被災者は安全地帯へ避難することが最善だった。しかし、私たちは家庭の事情もありすぐには避難することができなかったので現地にしばらく残り、放射線量を毎日、専用の機械で測定した。悲しいことに放射線量は減るどころかますます増え、さすがにこのままではとても危険だと判断した。そしてついに私たちは２０１４年に栃木県を離れ、ある知人が薦めてくれた秋田県に避難することを決めた。

秋田県に移住し始めた頃は、まだたくさんの雪が積もっており、あたりは真っ白だったが、雪が溶けたら豊かで壮大な大自然がみられるということを聞き、期待が膨らんだ。

雪が溶けると、聞いていた通り、いやそれ以上の景色が私の目の前を覆った。私はその素晴らしい景色を見て感動した。

ある日、母が家の前の畑で家庭菜園を始めた。私も何気なく母の手伝いをした。私にとって初めての農作業は、「ジャガイモの定植」だった。とても疲れたがとても楽しかった。その後も時間があるときは、野菜の収穫や水やりをした。暑さに負けてしまい、やる気を失ったこともあったが決して嫌いにならなかった。こうして私と農の物語が幕を開けた。

私が中学２年生の時には、数人の知り合いと稲刈りをする機会があった。１枚の田んぼからたくさんのお米が収穫できた時の喜びと達成感は今でも忘れられない。このような体験を通して、私は徐々に農業に対する興味や学んでみたいという思いが芽生えてきた。そこで両親は、農業ができ、それについて学べる学校をインターネットで探してくれた。何日もかけて探し、目に留まったのが愛農高校だった。ここでは、農業や食のありがたみを学べるほか、寮生活などを通して、自分自身と向き合えるということを知り、私はこの学校がとても気になった。インターネットで見ただけだとよく分からなかったので、その年には２泊３日のイベントに。３年生の時には１泊２日の体験入学に参加した。より一層気に入った私はついに愛農高校の受験を決めた。合格通知が届いた時は喜びを隠し切れなかった。

２０１８年４月。私は愛農高校に入学し、親元を離れて生活をすることになった。最初はとても不安な日の連続だったが、共同生活をしていくうちに楽しい日々を送れるようになった。９月には、１週間の農家実習があり、実際の農家生活を体験できた。今年の３月には、卒業生からお話を聞く機会があり、卒業後から現在までの歩みや、農業に対する思いを聞くことができた。

高校２年生になる頃。私は、少子高齢化が進む村で農業を実践し、１つのコミュニティを作り、幸せな家庭を築きたいという夢ができた。更にその夢について深く考えていく中で、私は「循環型農業」「家族農業」「６次産業化」という農業の形に出会った。循環型農業は、自分の農場で出た物をサイクル利用することで環境への負荷を配慮し、飼料費などの多少のコストも賄える。また、循環することで持続可能な農業ができる。家族農業は、小規模面積で、家族で方針や分担を決め、意欲とやりがいを持って経営ができる。６次産業化は、農産物を作るだけではなく、サービスを通じて消費者とつながることができる。というそれぞれの良さを見つけた。

奈良県の石井農園では、飼料の大半を自給し、それを鶏に与え、鶏糞を肥料として利用する「循環型農業」を実践されている。兵庫県の婦木農場では、人を雇わず家族でそれぞれ分担を決めて経営する「家族農業」。農産物をネットなどの様々な方法で販売、さらに毎月農家カフェを開き、旬の野菜などを使った家庭料理や加工品を提供する「６次産業化」を実践されている。私は彼らが実践されている農業に魅力を感じ、今では理想に掲げている。婦木農場に関しては、最も理想的な小規模農家といっても過言ではないだろう。こんな農業が本当に実現したら、地球に存在する全ての生き物にとって生きやすい環境になり、小規模農業の可能性を見出すことができるのではないかと考える。

今振り返ると、あの東日本大震災が起きていなければ秋田県に移住していなかったと思うし、そこで小さな農に出会っていなければ、農業者になるという夢もできていなかったと思う。私は、この夢のきっかけを作ってくれた全てに感謝したい。また、夢の実現のために私は、これからも出会いを大切に、農業をしっかり学び、将来の日本の事や自分の事を考え続けていきたい。